

古屋拉致問題担当大臣記者会見要旨

日時：平成25年10月18日（金） 9：39～9：46

場所：院内閣議室前

1. 発言要旨

今日の閣議後の閣僚懇でも、私は台風26号のことについて報告をさせていただきました。

御承知のように26号、特に大島町で大変な被害が発生しました。特に人的被害、もう既に現時点で21名の方がお亡くなりになっていますし、まだまだ行方不明者がたくさんいます。まず、各省庁に徹底的にお願いをして、この行方不明者の捜索、時間との勝負でもありますので、徹底をしていきたいと思っております。警察、消防、自衛隊、国交省等々が密接な連携をとりながら人の派遣、専門家の派遣、重機の派遣、あるいは警察は警察犬の派遣等々、万全を期して今対応をさせていただいております。

その上で、私、昨日の夕方の会見でも申し上げましたが、結果として避難指示、避難勧告が出ていなかった。あるいは町長、副町長が不在であった。最近では、夕方6時から12時半まで、その日、役場には防災の担当者が不在であったというようなことも判明してきているようでございます。本当に危機管理上これで問題がなかったのかどうかということでありまして、しっかり検証していく必要があると思っております。その上で、今回のこういった残念な事件というか事案、事象を教訓に今後どういう取組ができるのかというようなことも含めてしっかり検討していきたいと思っております。

そのためには、まず事実関係がどうだったのかということの詳細にチェックをして分析をしていくということが大切であります。しかし、その前にやることは、何と言っても行方不明者の捜索、これを徹底的にやっていきたいと思っております。

私は明日、視察をさせていただきます。政府の調査団の団長として、明日、現地に入らせていただきます。明後日は総理が視察に訪れる予定でございます。総理は上空からの視察が中心になるかと思えます。天候次第ということになります。特に台風27号がまたこの大島地区を初め関東地方を襲う可能性がありますので、それまでに応急処置、二次災害を起こさないような、この対策の徹底が必要でございまして、今そのために自衛隊の「おおすみ」等々も中に50台ほどの重機を積んでいただいて、あるいは国交省にもお願いをして、そういった重機の確保をして二次災害を防ぐ、万全を期していきたいと思っております。

以上です。

2. 質疑応答

（問）特別警報の発表の仕方とかについてはいかがですか。

（答）特別警報の在り方は、これは基本的な考え方が広域でということなので、こういったような、本当に局地的に雨が降ったということでございますので、これは警報は特別警報の在り方が、本当にそれが技術的に可能なかどうか、これはしっかり検証していく必

要があると思います。

それと、特別警報はもちろんですけれども、避難指示、避難勧告の出し方のタイミングですね。それから、何と言っても消防庁あるいは東京都ですね、支庁がありますので東京、それから警察、こういった関係者から避難指示あるいは避難勧告のアドバイスをしているんですね。これはもう実際に現実にそれは確認しております。結果として、それについてもそういった指示あるいは勧告は出なかったということでもありますので、こういったこともしっかりと検証していく必要があると思っております。

(問) 昨日、朝鮮総連のをモンゴルの会社が落札された等々、これ、どんなふうな情報を。

(答) モンゴルに本社を置く企業が落札をしたという情報は承知をいたしております。個別の事案ですから、これ以上のコメントは差し控えます。

(問) 明日、視察は日程的にはもう午前から。

(答) もう朝から行く予定ですけど、天候と相談をしなければなりません。空から入れるのか、あるいは海から行くのか、これはまだ天候の状況を見きわめながら対処します。いずれの形でも行けるようにしているということでもあります。

(問) 明日の視察は、先ほどおっしゃった検証という、いろいろなことを検証することと、あと被害状況。

(答) 被害状況の把握と、それから、やはり現場で皆さんが本当に夜を徹して頑張っていたいておりますので、それに対する激励、そして27号が来ますので、その二次災害を防止するための作業の徹底等々ですね。

(問) 町の担当者からも一応。

(答) もちろん聞こうと思っております。

(問) 今日、総務大臣が靖国参拝なさっていますけれども。

(答) 聞きました。

(問) 大臣御自身は。

(答) 適時適切に判断いたします。

(問) 共同通信、江藤です。

総務大臣の参拝の外交への影響とかその辺はどうお考えでしょうか。

(答) もうこれは靖国の、私何度も言っているように、国のために命を捧げた方々に対する慰霊の在り方をどうするかは、もっぱら国内の問題である、こういうふうに認識をいたしております。

(問) 毎日新聞の村尾です。

総理は、真榊を奉納するという形で御自身の参拝は控えられましたけれども、それについての受け止めは。

(答) 春もそういう対応をされましたので、秋もそういう対応をされたというふうに受け止めております。

(問) あと、それと関連で、中国、韓国それぞれステートメントというような形で憂慮するようなコメントを出していますけれども、それに関しての受け止めは。

(答) もう何度も申し上げるように、これは国内問題でありますので、そういった外交に

影響が出るということは好ましいことではありません。

(以 上)